

令和6年度

大牟田市自然環境調査報告書

調査地区：櫟野地区



櫟野地区の自然

令和7年5月
大牟田市

大牟田市では、令和5年3月に「第3次環境基本計画」を策定し、自然共生社会の実現を基本方針のひとつに掲げ、自然環境の保全を重要な課題のひとつと位置づけていることから、自然環境に関する調査を実施し、その調査結果を自然環境保全の基礎資料として活用しています。

本報告書は、令和6年度に実施した櫛野地区の自然環境調査結果を分野ごとに取りまとめたものです。

目 次

1 調査目的	1
2 調査分野と調査実施期間	1
3 調査区域	2
4 調査方法	3
5 調査結果	4
(1) 植物	4
(2) 鳥類	17
(3) 昆虫類・クモ類	19
(4) は虫類・両生類	28
(5) ほ乳類	30
6 まとめ	32

1 調査目的

本調査は、大牟田市第3次環境基本計画（令和5年3月）に基づき、自然環境保全の基礎資料とともに、市民・事業者等の啓発に資するため実施した。

2 調査分野と調査実施期間

調査対象分野は表1の各分野とし、担当の大牟田市自然環境調査研究専門委員が春季、秋季の2回調査を実施した。

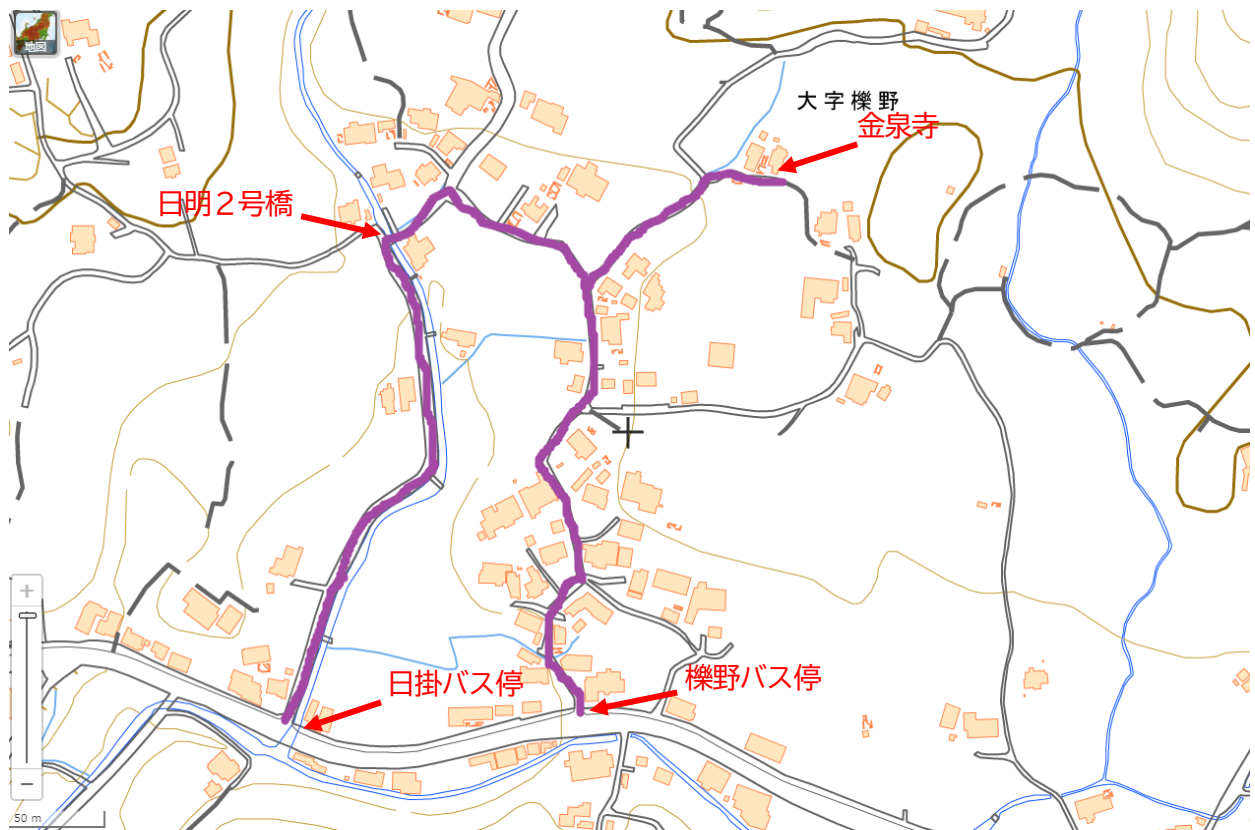
表1. 調査分野と調査実施期間

分 野	担当専門委員	春季調査	秋季調査
植 物	中島 健晴	R6. 5. 17	R6. 10. 18
鳥 類	佐藤 政明	R6. 5. 29	R6. 11. 20
昆虫類・クモ類	中嶋 秀利	R6. 5. 29	R6. 10. 21
は虫類・両生類	松永 公幸	R6. 6. 8	R6. 9. 14
ほ乳類	尾形 健二	R6. 5. 21	R6. 10. 21

3 調査区域

今回の調査では、図1のとおり、櫟野地区を調査区域とした。

図1. 調査区域



4 調査方法

本調査は、目視確認による現地調査を基本とし、必要に応じて聴き取り調査や文献調査等を行うこととした。

確認された生物種は分野ごとに一覧表にまとめた。備考欄に記載した記号の意味は以下のとおり。

表2. 表中で使用了記号の意味

記 号	用 語	意 味
Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大しており、将来的に絶滅のおそれのある種。
準絶	準絶滅危惧	当面絶滅のおそれはないが、その傾向が強まっている種。
(国)	環境省レッドリスト	環境省レッドリストを示す。
(県)	福岡県レッドデータ	福岡県レッドデータを示す。
特外	特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので、国が指定したもの。
植物のみ	木 木本類	木本類とは形成層が発達し木質化するもので、おおまかにいえば年輪を有するもの。 ⇨草本類は、形成層が無い、あるいはあまり発達せず木質化しないもの。「木」の記載がないものは全て草本類。 つる性植物については、木質化するものを木本類とし、それ以外を草本類とした。 竹については、諸説あるので木本類とはしなかった。
	外 外来植物	本来生息しない地域に、人為的に持ち込まれた植物。国内に移入された年代は諸説あるため統一された学会の見解は無いが、ここでは史前帰化と思われるものは含めないこととした。
	逸 植栽逸出	人為的に植栽されたものが、野生化して繁殖したもの。外来種については逸出を含め外来種としてまとめ、在来種の逸出のみを表示した。

5 調査結果

(1) 植物

- ◆ 維管束植物（シダ植物及び種子植物）を対象として調査を行い、維管束植物82科308種が確認された。
- ◆ 環境省準絶滅危惧、福岡県準絶滅危惧のコイヌガラシが確認された。
- ◆ 環境省準絶滅危惧、福岡県準絶滅危惧のカワヂシャが確認された。

表3. 確認された植物の調査結果

(新エングラー分類による)

分類群	のべ		春季		秋季	
	科	種	科	種	科	種
維管束植物	82	308	69	219	70	189
シダ植物	10	19	10	16	9	14
種子植物	72	289	59	203	61	175
裸子植物	0	0	0	0	0	0
被子植物	72	289	59	203	61	175
双子葉類	61	196	49	146	52	118
離弁花類	45	128	36	94	38	76
合弁花類	16	68	13	52	14	42
単子葉類	11	93	10	57	9	57

表4. 確認された主な植物

	国：準絶滅危惧 県：準絶滅危惧 水田周辺や水路周辺などの日当たりの良い設置に生息する一年草。花は葉腋に1つずつ着く点で、総状に着く同属他種と区別できる。
コイヌガラシ	(出典：福岡県の希少野生生物)

表5. 確認された植物

NO.1

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
シダ植物 (10 科 19 種)				
イノモトソウ科	アマクサシダ	○	○	
	イノモトソウ	○	○	
イワヒバ科	イヌカタヒバ	○	○	
	タチクラマゴケ	○		
	ヒメクラマゴケ		○	
ウラボシ科	ノキシノブ	○	○	
	マメツタ	○	○	
	ミツデウラボシ		○	
オシダ科	オオイタチシダ	○		
	オニヤブソテツ		○	
チャンセンシダ科	コバノヒノキシダ	○		
	トラノオシダ	○		
トクサ科	スギナ	○	○	
ヒメシダ科	ゲジゲジシダ	○		
	ホシダ	○	○	
フサシダ科	カニクサ	○	○	
ハウライシダ科	ハウライシダ	○	○	外
	タチシノブ	○	○	
ホングウシダ科	ホラシノブ	○	○	
種子植物 (72 科 289 種)				
└ 被子植物 (72 科 289 種)				
└ 双子葉類 (61 科 196 種)				
└ 離弁花類 (45 科 128 種)				
アカバナ科	チョウジタデ		○	
	ヒレタゴボウ		○	外
アケビ科	アケビ	○		木
	ミツバアケビ		○	木
	ムベ	○	○	木

表5. 確認された植物

NO.2

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5 月 17 日	10 月 18 日	
離弁花類（続き）				
アブラナ科	イヌガラシ	○	○	
	オランダガラシ	○	○	外
	カラクサナズナ	○		外
	コイヌガラシ	○		(国)準絶、(県)準絶
	スカシタゴボウ	○		
	セイヨウカラシナ		○	外
	タネツケバナ		○	
	ミチタネツケバナ	○		外
イラクサ科	カラムシ	○	○	
	ヤブマオ		○	
ウコギ科	キツタ	○		木
	チドメグサ	○	○	
	ノチドメ	○		
	ヤツデ	○	○	木
ウリ科	カラスウリ		○	
ウルシ科	ヌルデ	○		木
	ハゼノキ		○	木
	ヤマハゼ	○		木
オシロイバナ科	オシロイバナ		○	
オトギリソウ科	サワオトギリ		○	
カエデ科	イロハカエデ	○		木
カタバミ科	イモカタバミ	○	○	外
	オッタチカタバミ	○	○	外
	カタバミ	○	○	
	ムラサキカタバミ	○		外
キョウチクトウ科	ケテイカカズラ	○		

表5. 確認された植物

NO.3

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
離弁花類（続き）				
キンポウゲ科	キツネノボタン	○		
	ケキツネノボタン	○		
	センニンソウ	○	○	
	ヒメウス	○		
	ボタンヅル		○	木
クスノキ科	シロダモ	○	○	木
	タブノキ	○	○	木
	ヤブニッケイ	○	○	木
グミ科	ナワシログミ	○	○	木
クワ科	イタビカズラ	○		木
	イヌビワ	○	○	木
	オオイタビ	○		木
	カナムグラ	○		
	クワクサ		○	
ケシ科	ムラサキケマン	○		
ザクロソウ科	ザクロソウ		○	
スミレ科	コスミレ		○	
	スミレ	○	○	
スベリヒユ科	スベリヒユ		○	
	ハゼラン	○		外
	ヒメマツバボタン		○	外
セリ科	ウマノミツバ	○		
	オヤブジラミ	○		
	セリ	○	○	
	マツバゼリ	○		

表5. 確認された植物

NO. 4

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
離弁花類（続き）				
タデ科	アオヒメタデ	○		外
	アレチギシギシ	○		
	イヌタデ		○	
	ギシギシ	○		
	サナエタデ	○		
	スイバ	○		
	ミゾソバ	○	○	
	ミチヤナギ	○		
	ヤナギタデ		○	
ツツラフジ科	アオツツラフジ	○		木
ツバキ科	ヒサカキ	○		木
	ヤブツバキ	○	○	木
トウダイグサ科	アカメガシワ	○		木
	アレチニシキソウ		○	外
	エノキグサ	○	○	
	コニシキソウ		○	外
	コバノニシキソウ	○	○	外
	コミカンソウ		○	
ドクダミ科	ドクダミ	○	○	
ナデシコ科	ウシハコベ	○	○	
	オランダミミナグサ	○		外
	コハコベ	○		外
	ツメクサ	○		
	ノミノツヅリ	○		
	ノミノフスマ	○		
ニガキ科	ニガキ		○	木
ニシキギ科	マサキ		○	木

表5. 確認された植物

NO.5

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
離弁花類（続き）				
ニレ科	エノキ	○	○	木
	ムクノキ		○	木
バラ科	オハビイチゴ	○	○	
	クサイチゴ	○	○	木
	ノイバラ	○	○	木
	ハビイチゴ	○	○	
	ユキヤナギ	○		木
ヒユ科	イノコヅチ	○	○	
	ホソバツルノゲイトウ	○		外
	ホナガイヌビユ		○	外
フウロソウ科	アメリカフウロ	○		外
	ゲンノショウコ	○	○	
ブドウ科	エビヅル	○		木
	ツタ	○		木
	ノブドウ	○	○	木
	ヤブガラシ	○	○	
ブナ科	アラカシ	○	○	木
	クヌギ		○	木
ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	○		
マタタビ科	オニマタタビ	○		木・外
マツブサ科	サネカズラ	○	○	木
マメ科	アレチヌスビトハギ	○	○	外
	ウマゴヤシ	○		外
	クズ	○	○	
	ゲンゲ	○		外
	コメツブツメクサ	○		外
	コメツブウマゴヤシ	○		外
	スズメノエンドウ	○		

表5. 確認された植物

NO.6

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
離弁花類（続き）				
マメ科（続き）	ツルマメ		○	
	ナツフジ	○	○	木
	ヌスビトハギ	○	○	
	ネコハギ	○		
	ネムノキ	○	○	木
	ヤハズエンドウ	○		
	ヤブマメ		○	
	ヤマフジ		○	木
マンサク科	イスノキ	○	○	木
ミソハギ科	キカシグサ		○	
	ナンゴクヒメミソハギ		○	外
	ヒメミソハギ		○	
	ホソバヒメミソハギ		○	外
メギ科	ナンテン	○	○	木
モチノキ科	クロガネモチ	○	○	木
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	○		外
ユキノシタ科	ユキノシタ		○	
合弁花類（16科68種）				
アカネ科	キクムグラ		○	
	クチナシ	○	○	木
	ヒメヨツバムグラ	○	○	
	ヘクソカズラ	○	○	
	ヤエムグラ	○		
オオバコ科	オオバコ	○	○	
	ツボミオオバコ	○	○	外
キキョウ科	キキョウソウ	○		外
	ミゾカクシ	○	○	

表5. 確認された植物

NO. 7

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
合併花類（続き）				
キク科	アキノノゲシ	○	○	
	アメリカセンダングサ	○	○	外
	アメリカタカサブロウ		○	外
	ウラジロチチコグサ	○	○	外
	オオアレチノギク	○	○	外
	オオジシバリ	○	○	
	オニタビラコ	○	○	
	オニノゲシ	○		外
	キクイモ	○		外
	コオニタビラコ	○		
	コセンダングサ	○	○	外
	シマカンギク	○		
	シロバナタンポポ	○		
	セイトカアワダチソウ		○	外
	セイヨウタンポポ	○	○	外
	ツワブキ	○		
	トキンソウ		○	
	ノゲシ	○		
	ハハコグサ	○		
	ハルジオン	○		外
	ヒメジョオン	○	○	外
	ヒメムカシヨモギ		○	外
	フキ	○	○	
	ベニバナポロギク	○		外
	ホソバツルノゲイトウ		○	外
	メリケントキンソウ	○		外
	ヤブタビラコ	○		
	ヨメナ	○	○	
	ヨモギ	○	○	

表5. 確認された植物

NO. 8

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
合併花類（続き）				
キツネノマゴ科	キツネノマゴ		○	
クマツヅラ科	アレチハナガサ	○	○	外
ゴマノハグサ科	ウリクサ		○	
	オオイヌノフグリ	○		外
	カワヂシャ	○		(国)準絶、(県)準絶
	タチイヌノフグリ	○		外
	トキワハゼ	○	○	
	ヒロハスズメノトウガラシ		○	
	フラサバソウ	○		外
	ムサクシ	○		
	マツバウンラン	○		外
サクラソウ科	コナスビ	○		
シソ科	カキドオシ	○	○	
	キランソウ	○		
	ヨウシュハッカ	○	○	外
	トウバナ		○	
	ホトケノザ	○		
	マルバハッカ		○	外
スイカズラ科	サンゴジュ	○	○	木・逸
	スイカズラ	○	○	木
ナガボノウルシ科	ナガボノウルシ		○	外
ナス科	アメリカイヌホオズキ	○		外
	ヒヨドリジョウゴ		○	
	ヒロハフウリンホオズキ		○	外
ヒルガオ科	アサガオ		○	
	ルコウソウ		○	外
ムラサキ科	キュウリグサ	○		
	ハナイバナ	○		
モクセイ科	ネズミモチ	○	○	木
ヤブコウジ科	マンリョウ	○	○	木

表5. 確認された植物

NO. 9

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
種子植物（72 科 289） └ 被子植物（72 科 289 種） └ <u>単子葉類（11 科 93 種）</u>				
アヤメ科	ニワゼキショウ	○		外
	ヒメヒオウギズイセン	○	○	外
イグサ科	クサイ	○		
	イグサ	○		
	コウガイゼキショウ	○		
	スズメノヤリ	○		
イネ科	アオカモジグサ	○		
	アキノエノコログサ		○	
	アキメヒシバ		○	
	アシカキ		○	
	アシボソ	○		
	アゼガヤ		○	
	アブラススキ		○	
	イタチガヤ		○	
	オオエノコロ	○	○	
	オヒシバ		○	
	カズノコグサ	○		
	カニツリグサ	○		
	カモジグサ	○		
	キシウスズメノヒエ		○	外
	ギョウギシバ	○		
	クサヨシ	○		
	クマザサ	○		
	ケイヌビエ		○	
	コスズメガヤ		○	外
	コツブキンエノコロ		○	

表5. 確認された植物

NO.10

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
合併花類（続き）				
イネ科	コブナグサ		○	
	ササガヤ	○		
	ササクサ		○	
	シナダレスズメガヤ	○		外
	シマスズメノヒエ	○	○	外
	ジュズダマ	○	○	外
	ススキ	○	○	
	スズメノカタビラ	○		
	スズメノチャヒキ	○		
	スズメノテッポウ	○		
	セイバンモロコシ		○	外
	セトガヤ	○		
	タチスズメノヒエ		○	外
	チガヤ	○	○	
	チカラシバ		○	
	チヂミザサ		○	
	トウチク	○	○	外
	トダシバ		○	
	ナギナタガヤ	○		外
	ニワホコリ		○	
	ヌカキビ		○	
	ヌカボ	○		
	ネズミノオ		○	
	ネズミホソムギ	○		外
	ハマヒエガエリ	○		
	ヒエガエリ	○		
	ヒメアシボソ		○	
	ヒメイヌビエ		○	
	ヒメコバンソウ	○		外

表5. 確認された植物

NO.11

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月17日	10月18日	
合併花類（続き）				
イネ科（続き）	ホウライチク		○	外
	マダケ	○	○	
	ミゾイチゴツナギ	○		
	モウソウチク	○		
	メダケ	○	○	
	メリケンカルカヤ		○	外
	ヤクナガイヌムギ	○		外
ウキクサ科	アオウキクサ	○		
ガマ科	ガマ	○	○	
カヤツリグサ科	アイダクグ		○	
	アオスゲ	○		
	アゼナルコ	○		
	イヌホルタイ		○	
	オニガヤツリ		○	
	カヤツリグサ		○	
	タマガヤツリ		○	
	ハマスゲ	○	○	
	ヒデリコ		○	
	ヒメクグ	○	○	
	ホルタイ		○	
サトイモ科	カラスビシャク	○	○	
	ショウブ	○		
	セキショウ	○	○	
ツユクサ科	イボクサ		○	
	カロライナツユクサ		○	外
	ツユクサ	○	○	
	マルバツユクサ	○	○	外
	ヤブミョウガ	○		

表5. 確認された植物

NO.12

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5 月 17 日	10 月 18 日	
合弁花類（続き）				
ヒガンバナ科	スイセン	○		
	ヒガンバナ		○	
ヤマノイモ科	ヤマノイモ	○	○	
ユリ科	ジャノヒゲ	○	○	
	ツルボ		○	
	ナガバジャノヒゲ	○		
	ニラ	○	○	
	ノビル	○	○	
	ヤブカンゾウ	○		
	ヤブラン	○	○	

(2) 鳥類

- ◆ 4目15科18種が確認された。

表6. 確認された主な鳥類

 ハクセキレイ	全長 21 cm。雄雌ほぼ同色で、夏羽は頭部が白く頭上が黒くて黒い過眼線がある。冬羽と幼鳥は全体に灰色味が強くなる。北海道から九州以北で繁殖するほか、冬鳥として全国に渡来する。生息場所は、平地から山地の海岸・畑・水田・草地・河原・湿地。 (出典：日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版)
 ホオジロ	全長 16.5 cm。雄は眉斑・頬線・喉は白い。耳羽と顎線は黒い。背は茶褐色で、黒褐色の縦斑がある。腰と上尾筒は茶褐色。雌は全体に色が淡く、耳羽と顎線は褐色で、眉斑は褐色を帯びる。過眼線から耳羽・顎線は黒い。屋久島以北で繁殖し、北方のものは冬季、暖地や南方へ移動する。生息場所は、平地から山地の灌木(かんぼく)林・草地・農耕地・河原・林縁など。 (出典：日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版)

表7. 確認された鳥類

NO.1

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月29日	11月20日	
コウノトリ目 (1科1種)				
サギ科	ダイサギ	○	○	
スズメ目 (11科14種)				
アトリ科	アトリ		○	
	カワラヒワ	○		
ウグイス科	ウグイス	○	○	
カラス科	ハシブトガラス	○	○	
	ハシボソガラス		○	
スズメ科	スズメ	○	○	
セキレイ科	ハクセキレイ		○	
ツバメ科	ツバメ	○		
ヒタキ科	シロハラ		○	
	ジョウビタキ		○	
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	
ホオジロ科	ホオジロ	○		
メジロ科	メジロ	○	○	
モズ科	モズ		○	
タカ目 (2科2種)				
タカ科	トビ		○	
ミサゴ科	ミサゴ		○	
ハト目 (1科1種)				
ハト科	キジバト	○	○	

(3) 昆虫類・クモ類

- ◆ 12目81科203種が確認された。
- ◆ 環境省絶滅危惧ⅠＢ類、福岡県準絶滅危惧のツマグロキチョウが確認された。
- ◆ 環境省準絶滅危惧、福岡県絶滅危惧Ⅱ類のフタスジサナエが確認された。
- ◆ 環境省準絶滅危惧、福岡県準絶滅危惧のヤホシホソマダラが確認された。

表8. 確認された主な昆虫類・クモ類

 ツマグロキチョウ	国：絶滅危惧ⅠＢ類 県：準絶滅危惧 大きさは3.5～4.0 cm。本州、四国、九州、4～11月(成虫越冬)／平地の川原～山。分布はキタキチョウに比べると局所的である。前翅(ぜんし)表面の黒帯帯が後角まで発達しない。秋型は後翅(こうし)裏面が橙色で黒色の長い横線が中央にある。 (出典：日本の昆虫 1400)
 フタスジサナエ	国：準絶滅危惧 県：絶滅危惧Ⅱ類 大きさは4.4～5.0 cm。本州(東北・北陸以西)、四国、九州／4～6月／平地～丘陵。池や水田などの周辺で見られる。胸側面の黒色条は、2本とも翅(はね)の付け根まで達する。静岡、岐阜、滋賀県以西に分布。日本固有種。 (出典：日本の昆虫 1400)
 ヤホシホソマダラ	国：準絶滅危惧 県：準絶滅危惧 開帳16～21 mm。前翅は暗褐色で、明瞭な黄色斑がある。北海道、本州、四国、九州、対馬の河川敷や湿地、明るい草地に局所的に産する。国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。成虫は6～8月に出現し、昼間に活動する。食草はササ、タケ、ヌマガヤ(イネ科)が知られる。河川開発(13)、草地開発(16)、土地の造成(23)などにより、生息地が狭められ細々と残存している。 (出典：レッドデータブック 2014 5 昆虫類)

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.1

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5 月 29 日	10 月 21 日	
アカミカゲロウ目 (2 科 2 種)				
ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ	○	○	
ツノトンボ科	ツノトンボ		○	
カマキリ目 (1 科 2 種)				
カマキリ科	オオカマキリ	○	○	
	ハラビロカマキリ	○	○	
カメムシ目 (8 科 13 種)				
アメンボ科	アメンボ	○	○	
	シマアメンボ	○	○	
オオヨコバイ科	ツマグロオオヨコバイ	○	○	
カメムシ科	アオクサカメムシ	○	○	
	ウシカメムシ		○	
	キマダラカメムシ	○	○	
	クサザキカメムシ	○		
ツチカメムシ科	ツチカメムシ	○	○	
ハナカメムシ科	ヤサハナカメムシ	○	○	
ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	○	○	
ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ	○	○	
	ホソヘリカメムシ	○	○	
マルカメムシ科	マルカメムシ	○	○	
コウチュウ目 (13 科 44 種)				
カミキリムシ科	カナブン		○	
	キクスイカミキリ	○		
	クビアカトラカミキリ	○		
	クロカナブン		○	
	クワカミキリ		○	
	ゴマダラカミキリ	○	○	
	ゴマフカミキリ	○		
	ジョウカイボン	○	○	
	ツマグロハナカミキリ	○		

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.2

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5 月 29 日	10 月 21 日	
コウチュウ目（続き）				
カミキリムシ科（続き）	ノコギリカミキリ		○	
	ヒメアシナガコガネ	○		
	ホシベニカミキリ	○		
	ヨツスジトラカミキリ	○		
	リンゴカミキリ	○		
ガムシ科	ヒメガムシ		○	
クワガタムシ科	コクワガタ		○	
	ヒラタクワガタ		○	
ゲンゴロウ科	ハイイロゲンゴロウ		○	
コガネムシ科	アオドウガネ	○	○	
	クロコガネ	○	○	
	コブマルエンマコガネ	○		
	シロテンハナムグリ		○	
	ヒメコガネ	○	○	
	ヒメトラハナムグリ	○		
	ビロウドコガネ	○		
	マメコガネ	○	○	
ゴミムシダマシ科	キマワリ	○	○	
	ホソスナゴミムシダマシ	○	○	
	ユミアシゴミムシダマシ	○	○	
センチコガネ科	センチコガネ	○	○	
ゾウムシ科	シロコブゾウムシ		○	
テントウムシ科	ナナホシテントウ	○	○	
	ナミテントウ	○	○	
ハネカクシ科	アオバアリガタハネカクシ	○	○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.3

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月29日	10月21日	
コウチュウ目（続き）				
ハムシ科	アカガネサルハムシ	○		
	イタドリハムシ	○	○	
	イチモンジハムシ	○		
	カタビロトゲハムシ		○	
	クロウリハムシ	○	○	
	ユリクビナガハムシ	○		
	ヨツモンカメノコハムシ	○		
	ヨモギハムシ		○	
ホタル科	ムネクリイロボタル	○		
マツモムシ科	マツモムシ		○	
ゴキブリ目（1科1種）				
チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	○	○	
チョウ目（14科53種）				
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ		○	
	アゲハ	○	○	
	カラスアゲハ		○	
	キアゲハ	○	○	
	ジャコウアゲハ	○	○	
	モンキアゲハ	○	○	
イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	○	○	
カノコガ科	カノコガ	○		
シジミチョウ科	ウラギンシジミ	○	○	
	ツバメシジミ	○	○	
	ベニシジミ	○		
	ムラサキシジミ		○	
	ムラサキツバメ	○	○	
	ヤマトシジミ	○	○	
	ルリシジミ	○	○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO. 4

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		4月19日	10月16日	
チョウ目（続き）				
シャクガ科	ウメエダシャク	○		
	トンボエダシャク	○		
シロチョウ科	キタキチョウ	○		
	スジグロシロチョウ	○	○	
	ツマグロキチョウ		○	(国)IB類、(県)準絶
	モンシロチョウ	○	○	
スズメガ科	オオスカシバ		○	
	クロメンガタスズメ		○	
セセリチョウ科	イチモンジセセリ		○	
	キマダラセセリ		○	
	クロセセリ	○	○	
	ダイミョウセセリ	○	○	
	チャバネセセリ		○	
タテハチョウ科	アカタテハ	○	○	
	イシガケチョウ	○	○	
	イチモンジチョウ		○	
	キタテハ	○	○	
	ゴマダラチョウ	○	○	
	コミスジ	○	○	
	スミナガシ		○	
	タテハモドキ	○	○	
	ツマグロヒョウモン	○	○	
	テングチョウ	○		
	ヒメアカタテハ	○		
	ヒメウラナミジャノメ	○	○	
	ヒメジャノメ	○	○	
	ミドリヒョウモン	○		
	ルリタテハ	○	○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.5

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月29日	10月21日	
チョウ目（続き）				
ドクガ科	ゴマフリドクガ		○	
	チャドクガ	○	○	
ドリバ科	コブドウトリバ		○	
マダラガ科	ヤホシホソマダラ	○		(国)準絶、(県)準絶
ミノガ科	シバミノガ	○		
	チャミノガ	○	○	
ヤガ科	ヒメクロイラガ	○		
	フトメイガ	○	○	
	フクラスズメ	○		
	マイマイガ	○		
トンボ目（4科17種）				
イトトンボ科	アオモンイトトンボ	○	○	
カワトンボ科	ハグロトンボ	○	○	
トンボ科	ウスバキトンボ	○	○	
	オオシオカラトンボ	○	○	
	コノシメトンボ		○	
	シオカラトンボ	○	○	
	シオヤトンボ	○		
	ジョウジョウトンボ		○	
	ノシメトンボ		○	
	ハラビロトンボ	○		
	フタスジサナエ	○		(国)準絶、(県)Ⅱ類
	マユタテアカネ		○	
ヤンマ科	オニヤンマ	○	○	
	カトリヤンマ		○	
	クロスジギンヤンマ	○	○	
	サラサヤンマ	○		
	ヤブヤンマ		○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.6

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月29日	10月21日	
ハエ目 (9科12種)				
アシナガバエ科	マダラアシナガハエ	○	○	
カ科	ヒトスジシマカ	○	○	
ガガンボ科	ベッコウガガンボ	○		
	ホリカワクシヒゲガガンボ		○	
クロバエ科	オオクロバエ		○	
ニクバエ科	センチニクバエ	○		
ハナアブ科	シマハナアブ	○	○	
	ホソヒラタアブ	○	○	
ミズアブ科	ルリミズアブ		○	
ムシヒキアブ科	シオヤアブ	○		
	マガリケムシヒキ	○		
ヤドリバエ科	ヒロズキンバエ		○	
ユスリカ科	セスジユスリカ	○	○	
ハチ目 (6科13種)				
アリ科	アミメアリ		○	
	オオシワアリ		○	
	クロオオアリ		○	
	トビイロシワアリ		○	
スズメバチ科	オオスズメバチ	○	○	
	コガタスズメバチ	○	○	
	セグロアシナガバチ	○	○	
ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ		○	
ミツバチ科	キムネクマバチ	○	○	
	トラマルハナバチ	○	○	
	ニホンミツバチ	○	○	
ミフシハバチ科	ルリチュウレンジ	○		

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.7

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月29日	10月21日	
バッタ目 (8科10種)				
オンブバッタ科	オンブバッタ	○	○	
イナゴ科	ツチイナゴ	○	○	
カネタタキ科	カネタタキ		○	
キリギリス科	ニシキリギリス	○		
コオロギ科	ツツレサセコオロギ		○	
ヒシバッタ科	ヒシバッタ	○		
ヒバリモドキ科	マダラスズ		○	
マツムシ科	アオマツムシ		○	
	スズムシ		○	
	マツムシ		○	
クモ目 (12科24種)				
アシナガグモ科	アシダカグモ	○	○	
	コシロカネグモ		○	
	チュウガタシロカネグモ	○	○	
	ヤサガタアシナガグモ	○	○	
ウズグモ科	ウズグモ		○	
カニグモ科	ハナグモ	○	○	
キシダグモ科	イオウヒロハシリグモ	○		
コガネグモ科	コガネグモ	○	○	
	ドヨウオニグモ		○	
	ナガコガネグモ	○		
	ワキグロサツマノミダマシ	○	○	
コモリグモ科	ウヅキコモリグモ	○		
	キクヅキコモリグモ		○	
	ハラクロコモリグモ	○		
ササグモ科	ササグモ	○	○	
ジグモ科	ジグモ	○	○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.8

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5月29日	10月21日	
クモ目（続き）				
ジョロウグモ科	ジョロウグモ	○	○	
タナグモ科	コクサグモ	○	○	
ハエトリグモ科	アオオビハエトリ	○		
	アリグモ	○	○	
	ネコハエトリ	○	○	
ヒメグモ科	オオヒメグモ	○	○	
	シロカネイソウロウグモ		○	
	ヒメグモ	○	○	

(4) は虫類・両生類

- ◆ 4目6科7種が確認された。
- ◆ 環境省準絶滅危惧、福岡県絶滅危惧Ⅱ類のトノサマガエルが確認された。
- ◆ 環境省準絶滅危惧、福岡県絶滅危惧Ⅱ類のアカハライモリが確認された。

表10. 確認された主な は虫類・両生類

 トノサマガエル	国：準絶滅危惧 県：絶滅危惧Ⅱ類 体長 4～9 cmで体格の良いカエル。あまり水辺を離れることはなく、沼池や水田、それらに接続する水路や小川、そしてそれを囲む草地や林地で暮らす。初夏に水田や湿地に大型の卵塊を産む。幼生は夏の間に変態し、昆虫などの小動物を捕食する。国外では朝鮮半島や中国などに分布。 (出典：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2024)
 アカハライモリ(オス)	国：準絶滅危惧 県：絶滅危惧Ⅱ類 山間の水田や細流、用水路、ため池などの水辺で見られることが多いが水辺付近の林床からもみいだされる。繁殖期は4月頃から始まり、雌は卵を一粒ずつ水中の落ち葉や水草の葉などに包んで産みつける。孵化(ふか)後約2か月ほどで変態上陸し、幼生は森林の林床で土壤動物を食べて成長する。日本固有種。 (出典：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2024)
 ニホンカナヘビ	尾が非常に長く、ヘビのように細長いことから“愛蛇(かなへび)”と呼ばれます。昼行性で、登る能力も高く、主に林縁のガレ場や草の上で日光浴をしている姿が見かけられます。繁殖期は主に5～8月で、石や倒木の下などに6～10 mm程の殻のある卵を2～6個産みます。夜は落ち葉の間や草の葉の上で眠り、10～4月になると石の下や土の中で冬眠します。全長16～27 cmくらいで、卵からふ化した時の大きさは全長で7～9 cmほどです。 (出典：いきものログ 環境省生物多様性センター)

表11. 確認された は虫類・両生類

NO.1

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		6月8日	9月14日	
は虫網 カメ目 (1科1種)				
スッポン科	スッポン	○		死体
は虫網 有鱗目 (2科3種)				
カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○	○	
ナミヘビ科	シマヘビ	○		死体
	ヤマカガシ	○		死体
両生網 有尾目 (1科1種)				
イモリ科	アカハライモリ	○		(国)準絶、(県)Ⅱ類
両生網 無尾目 (2科2種)				
アカガエル科	トノサマガエル		○	(国)準絶、(県)Ⅱ類
ヌマガエル科	ヌマガエル	○	○	

(5) ほ乳類

- ◆ 2目3科3種が確認された。
- ◆ 特定外来生物のアライグマの爪痕が確認された。

表12. 確認された主な ほ乳類

 アライグマの爪痕	特定外来生物 頭胴長 42～60cm 尾長 19.2～40.5cm 体重 6～10kg 北アメリカ原産の帰化種で、動物展示施設から逃げ出したり、ペットとして輸入したものが逃亡・放棄され、各地で野生化した。日本に定着して数十年、記録上では全都道府県で侵入情報があるという。水辺を好み、木のぼりも得意。雑食性で何でも食べ、数頭で移動することから農作物に多大な被害をもたらす。アライグマの影響で、生息環境や生活スタイルの似るイタチが駆逐（くちく）された地域もある。また、在来種のキツネやタヌキなどへの影響も心配される。特定外来生物。 (出典：『哺乳類のフィールドサイン観察ガイド』)
 キツネ(櫛野地区で確認されたキツネではありません)	頭胴長 38.8～70.5cm 尾長 25～44cm 体重 1.9～6.7kg 平地から高山まで広く分布する。タヌキほど姿を見る機会は多くないが、日本を代表する里山動物のひとつだ。主に森林内で暮らす。林縁付近の草原や農耕地、河川敷などにも姿を現す。動物食で、野ネズミや鳥類、昆虫類などを採食するが、秋季には果実もよく食べる。日本には2亜種が分布し、本州から九州に分布するホンドキツネは、前足の先全体が黒く、それに対して北海道に分布するキタキツネは大型で、四肢(しし)の先全体が黒い。 (出典：『哺乳類のフィールドサイン観察ガイド』)

表13. 確認された ほ乳類

NO.1

科 名	種 名 (和 名)	春季調査	秋季調査	備 考
		5 月 21 日	10 月 21 日	
偶蹄目（1 科 1 種）				
イノシシ科	イノシシ		○	足跡を確認
食肉目（2 科 2 種）				
アライグマ科	アライグマ	○	○	特外、柱に爪痕を確認
イヌ科	キツネ		○	れき死体

6 まとめ

今回の調査では、のべ187科539種の生物が確認された（表14参照）。

また、7種の希少生物が確認された（表15参照）。

表14. 調査結果まとめ

	目	科	種
植 物		82	308
鳥 類	4	15	18
昆 虫 類	11	69	179
クモ類	1	12	24
は虫類	2	3	4
両生類	2	3	3
ほ乳類	2	3	3
合 計	22	187	539

表15. 確認された希少生物まとめ

	I A類 (国)	I B類 (国)	Ⅱ類 (国)	準絶 (国)	その他
植 物				コイヌガラシ【準絶】 カワヂシャ【準絶】	
鳥 類					
昆虫類		ツマグロキチョウ【準絶】		フタスジサナエ【Ⅱ類】 ヤホシホソマダラ【準絶】	
両生類				アカハライモリ【Ⅱ類】 トノサマガエル【Ⅱ類】	

※表中各列のタイトルは環境省のレッドリストの分類を表し、【 】内は、福岡県のレッドデータの分類を表す。

今年度は、櫛野地区の調査を行った。調査は各分野2回（春季・秋季）行い、7種の希少生物、1種の特定外来生物を含む539種の生物を確認できた。

今回の調査で新たに確認された希少生物がいる一方、H23年度に確認された希少生物が確認されなかった。しかし決まったルート上での調査であるため、必ずしも生息していないとはいえず、さらに把握を進めるためにも、引き続き調査の実施が求められる。

発 行 日 / 令和7年5月

編集・発行 / 大牟田市環境部環境保全課

〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地

TEL : 0944 (41) 2721 FAX : 0944 (41) 2722

